様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月　 ２ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３６８６

研究課題名（和文）ミクロとマクロ，供与と中断：内戦への介入・援助の帰結を巡る新たな理論と実証

研究課題名（英文）Micro and Macro, Provision and Shocks: A Study of the Consequences of Intervention and Aid Provision in Civil Conflicts

研究代表者
伊藤　岳（Ito, Gaku）

広島大学・国際協力研究科・助教

研究者番号：８０７７３８９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：第三国・国際組織等（以下，外部勢力）による内戦への介入・援助の供与と中断は，（1）内戦における戦闘・暴力の展開と（2）内戦全体の継続期間・終結形態を左右し得る。本研究は，市区町村のようなローカルなレベルでの介入・援助や戦闘・暴力の発生地点・時点を把握可能な空間データ，地理情報システム（geographic information system, GIS），および計量分析の手法を用いて，この2点を中心とした実証分析に取り組んだ。主要な成果は，領域上位の国際誌や国際学会を中心に英語論文として研究期間内に公表できた。査読中・修正中論文についても，今後国際誌での公刊を目指し修正する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究計画は，外部勢力による内戦への介入・援助の供与と中断が，（1）内戦における戦闘・暴力の展開と（2）内戦全体の継続期間・終結形態に与える影響の検証という，学術的にも政策的／社会的にも示唆を与える研究に取り組んだ。武力紛争下の介入・援助の帰結・効果を巡る研究と論争への示唆といった学術的意義に加えて，本研究から得られた知見は武力紛争の惨禍を縮減するための政策的処方箋にも示唆を与える。

研究成果の概要（英文）：External intervention and aid provision into civil wars can shape, first, subsequent dynamics of civil war battles and violence, and second, when and how civil wars end. Utilizing precisely geocoded records of external intervention, aid inflows, and conflict events, this three-year research project systematically explored these micro- and macro-level consequences of intervention efforts in civil wars. Several manuscripts have been submitted to major academic journals in the related fields, including two manuscripts accepted and published in high-ranked journals such as the Journal of Conflict Resolution.

研究分野：国際関係論

キーワード：援助・介入　武力紛争　内戦　空間データ　地理情報システム　実証分析

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

(1)「介入・援助の帰結」を巡る 2 つの軸と 4 つの象限

内戦・紛争研究の中心的論点に，平和維持活動や人道的支援のような，第三国・国際組織・NGO 等（以下，外部勢力）による介入・援助が内戦の趨勢に与える効果がある（介入・援助の帰結）。図 1 に示したように，「介入・援助の帰結」を捉えるとき，「2 つの軸」で分割される「4 つの象限」が考えられる。第 1 の軸は，「分析のレベル」（ミクロの帰結・効果とマクロの帰結・効果）である（図 1 横軸）。この軸に添えば，介入・援助の帰結には（1）介入・援助の展開地点やその周辺地域における，将来的な戦闘・暴力の展開に対する効果と（ミクロの帰結），（2）内戦全体の継続期間・終結形態に与える効果がある（マクロの帰結）。たとえば，紛争地域への人道的支援が，その展開地域における戦闘・暴力の増減に与える影響（ミクロの帰結; 図 1 第 II 象限）や，援助の供与が被援助国における内戦生起・終結の蓋然性に与える影響（マクロの帰結; 図 1 第 I 象限）を巡る研究が，これまで進展してきた。

第 2 の軸は，「介入・援助の『供与』と『中断』いずれに着目するか」（intervention/aid provision or withdrawal）である（図 1 縦軸）。多くの先行研究は，（1）介入・援助の「供与」（intervention/aid provision）が，戦闘や紛争全体に与える効果を検証してきた。他方で，一部の先駆的研究は供与だけでなく，（2）介入・援助の「中断」（intervention/aid withdrawal）もまた，内戦の生起や趨勢を左右することを示唆する（Nielsen et al. 2011; 図 1 第 III, IV 象限）。

		分析のレベル	
		ミクロ・レベル (ローカル)	マクロ・レベル (内戦全体)
援助の供与・中断いずれに着目するか	供与	第 **II** 象限: 供与のミクロの帰結 e.g., 援助の供与 → 戦闘・暴力の増減 (参考文献 [1])	第 **I** 象限: 供与のマクロの帰結 e.g., 援助の供与 → 内戦生起・終結 (参考文献 [2])
	中断	第 **III** 象限: 中断のミクロの帰結 (欠落) e.g., 援助の中断 → 戦闘・暴力の増減	第 **IV** 象限: 中断のマクロの帰結 e.g., 援助の中断 → 内戦生起・終結 (参考文献 [3])

図 1 :「介入・援助の帰結」を巡る「2 つの軸」と「4 つの象限」

(2) 先行研究の課題と本研究の着想

先行研究の課題は次の 2 点にあり，本研究計画はこうした課題を解決する理論と実証の提示を主な目的とした。第 1 の課題は，図 1 第 III 象限を巡る研究の欠落にある。先行研究の多くは「援助を供与すること」が戦闘の展開・紛争全体の帰趨に与える影響に着目してきた一方，「援助を中断すること」の帰結を看過しがちだった（Nielsen et al. 2011）。しかし，たとえば，人道的支援の展開が援助物資を獲得・強奪する誘因や，物資を巡る交戦主体間の戦闘の機会を左右するならば（Wood and Sullivan 2015），援助の中断もまた戦闘の趨勢を左右すると考えられる。この傾向は第 III 象限に顕著であり，ある地域における介入・援助の中断が，当該・周辺地域における戦闘・暴力の増減に与える影響やそのメカニズムを巡る研究は，完全に欠落している。

第 2 の課題は，分析レベル（図 1 横軸）を横断する知見の欠落にある。たとえば，特定の形態での介入・援助の供与は，戦闘・暴力の短期的縮減につながる一方（ミクロの帰結），結果として武装勢力の生存を助け，内戦全体の長期化（マクロの帰結）を招く可能性もある。関連して，武力紛争の継続期間・終結を巡る研究は，戦闘・暴力行使の展開自体が事前には明らかではなかった情報を開示することや，武力紛争継続のコストを引き上げることなどを通して，紛争全体の継続期間を左右することを明らかにしている（Ramsay 2008; Slantchev 2003; Weisiger 2016）。こうした武力紛争の展開と終結を巡る知見を踏まえれば，介入・援助の開始・中断もまた「戦闘・暴力の展開の仕方」を左右するために，内戦全体の継続期間・終結形態を左右すると考えられる。「内戦に対する介入・援助の帰結」を解明する実証研究は，こうした分析レベルを横断する知見を提示するものでなければならない。しかしながら，こうした分析レベルを横断する視点は，先行研究から欠落している。

引用文献

Nielsen, Richard A., et al. 2011. “Foreign aid shocks as a cause of violent armed conflict.” *American Journal of Political Science* 55(2): 219–232.
Ramsay, Kristopher W. 2008. “Settling it on the field: Battlefield events and war termination.” *Journal of Conflict Resolution* 52(6): 850–879.
Slantchev, Branislav L. 2003. “The principle of convergence in wartime negotiations.” *American Political Science Review* 97(4): 621–632.
Weisiger, Alex. 2016. “Learning from the battlefield: Information, domestic politics, and interstate war duration.” *International Organization* 70(2): 347–375.
Wood, Reed M., and Christopher Sullivan. 2015. “Doing harm by doing good? The negative externalities of humanitarian aid provision during civil conflict.” *Journal of Politics* 77(3): 736–748.

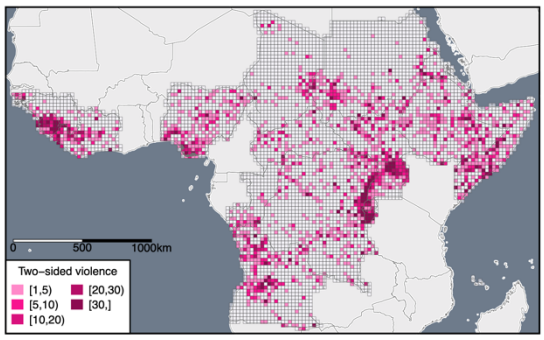
２．研究の目的

上記の先行研究の課題を踏まえ，本研究計画は研究期間を通じて，（1）図 1 第 II, III 象限におけるミクロ・レベルの知見とともに，（2）分析レベルを横断する統合的な理論と実証を提示することを，主な目的とした。具体的には，本研究計画は，外部勢力による内戦への介入・援助の供与と中断が（1）当該内戦における戦闘・暴力の展開と，（2）内戦全体の継続期間・終結形態に与える影響を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

上記の 2 つの目的に対応する形で，研究期間を通じて，本研究では次の作業を通して研究を進めた。第 1 に，内戦の激化・鎮静化，特に外部勢力による内戦への介入・援助の展開やその中断が，介入・援助の展開地点・周辺地域における（ローカル／サブナショナルな）戦闘・暴力の趨勢（e.g., 特定地域における戦闘発生件数の増減や，周辺地域への空間的拡散）に与える効果を巡る実証分析に取り組んだ。第 2 に，内戦の継続・終結を巡る実証研究，特に（a）ローカルな戦闘・暴力行使の展開と内戦終結の関係と，（b）外部勢力による介入・援助の供与・中断（e.g., ある地域からの部隊の撤退，援助の急増や急減）が，ローカルな戦闘・暴力行使の展開を左右することを通して，内戦全体の継続期間・終結形態に与える影響に着目した実証分析に取り組んだ。

具体的には，多数の内戦をカバーするデータセットと，地理情報システム（geographic information system, GIS）と計量分析および統計的因果推論の手法を用いて，これらの実証分析に取り組んだ。特に，実証分析の中心として，市区町村のようなローカルなレベルでの介入・援助や戦闘・暴力の発生地点・時点を把握可能な空間データ（spatial data; e.g., PRIO ACLED AidData, UCDP GED, Geo-PKO）を用いた。図 2 に示したように，こうした空間データを用いることで内戦と介入・援助のローカルな様相を体系的に把握でき，たとえば「ある地点における介入・援助の展開・中断が，それに次ぐ戦闘・暴力行使の増減や空間的拡散に与える影響の検証」といった実証分析に取り組むことができる。



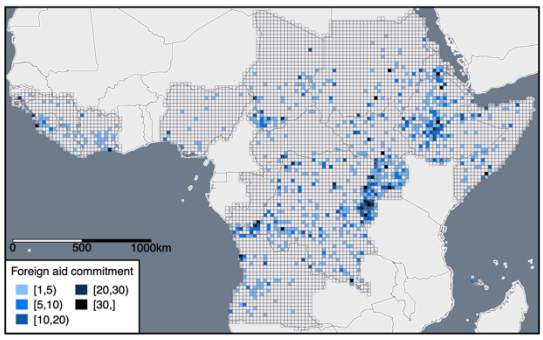


図 2：内戦における戦闘の発生地点（左, PRIO ACLED）と対外援助の展開地点（右, AidData）

４．研究成果

研究期間の 3 年間を通じて，国際誌論文や国際学会等で研究成果を公表できた。具体的には，下記のように 1 本の論文が研究期間内に領域上位の国際誌（*Journal of Conflict Resolution* 誌）で公刊されたほか，他の 1 本が同等ランクの国際誌（*Journal of Peace Research* 誌）からアクセプトされ，近刊予定となった。研究期間内に公刊に至らなかった他の論文についても，以下の通り投稿・公刊の目処が立った。また，これらの英語論文に加え日本語論文 1 本（査読無し）が研究期間内に公刊された。

（1）ミクロの帰結を巡る実証分析：介入・援助と内戦の激化・鎮静化

外部からの介入・援助の展開と中断の効果，特に介入・援助の投入地点とその周辺地域における戦闘・暴力に対する効果については，（a）紛争下の対外援助と（b）国連平和維持活動（UN Peacekeeping Operations, UNPKO）に着目した実証研究に取り組んだ。（a）対外援助の効果については，図 2 に示したようなローカルなレベルでの介入・援助や戦闘・暴力の発生地点・時点を把握可能な空間データと，統計的因果推論の手法を用いた実証分析に取り組んだ。実証分析の結果をまとめた論文は国際学会での発表を経て，研究期間内に国際誌に投稿できた。(b) についても，同様に空間データと統計的因果推論の手法を用いた実証分析を中心とした論文を研究期間内に国際学会等で発表し，国際誌投稿の目処が立った。

なお，これらの論文は数度の投稿・修正の中で，残念ながら研究期間内の公刊に至らなかったものの，1 本については社会科学系論文レポジトリ SSRN（Social Sciences Research Network, https://www.ssrn.com/index.cfm/en/）においてワーキングペーパーとして公開し，研究代表者の個人ウェブサイト（https://gaku-ito.github.io）からもアクセスできる。

（2）マクロの帰結を巡る実証分析：介入・援助と内戦の終結

内戦の終結・継続期間・結果の決定要因を巡る実証研究については，「内戦におけるローカルな戦闘・暴力の展開」と「内戦全体の終結・継続期間・結果」との関係性に着目した実証研究に主に取り組んだ。一般に，戦闘・暴力の激化や展開は，事前には明らかではなかった情報を明らかにすること（情報公開効果）や，交戦主体（中央政府や武装勢力）間のパワーバランスを変動させることで，内戦終結の蓋然性や内戦の結果を左右すると考えられる。さらに，上記「(1) 介入・援助と内戦の激化・鎮静化」を巡る実証研究から得た知見からすれば，外部からの介入・援助は，戦闘・暴力の激化や展開を左右することで，戦闘・暴力行使の情報公開効果やパワーバランスをも左右し，内戦全体の終結に影響すると考えられる。本研究計画では，こうした着想に基づき，内戦終結を巡る実証研究にも取り組んだ。

成果をまとめた論文の 1 本（“Battle Diffusion Matters: Examining the Impact of Microdynamics of Fighting on Conflict Termination”）は，領域上位の国際誌である *Journal of Conflict Resolution* 誌に研究期間内にアクセプトされ，公刊された。さらに，本研究計画と密接に関連する別の論文 1 本も同等ランクの国際誌（*Journal of Peace Research* 誌）からアクセプトされ，近刊予定となった。「介入・援助が戦闘・暴力の展開（ミクロ・レベル）を左右することで，内戦全体の継続期間・終結の蓋然性（マクロ・レベル）を左右する」という可能性にフォーカスした論文についても，今後同様に国際誌に投稿する。

また，本研究計画は研究代表者単独のものだが，関連する研究の一部は従前より協力関係にあった国外の研究者との共同研究として発展させ，進めることができた。上述の成果の一部もこうした国際共同研究によるものであり，この協力関係は，本研究計画の成果とも密接に関連する，2020 年度以降の発展的な研究計画の基盤ともなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Ito, Gaku, and Kaisa Hinkkainen Elliott	４．巻 64
２．論文標題 Battle Diffusion Matters: Examining the Impact of Microdynamics of Fighting on Conflict Termination	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Conflict Resolution	６．最初と最後の頁 871-902
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0022002719885428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 伊藤岳・山影進	４．巻 5
２．論文標題 実証的シミュレーションの「作法」：現実との接合と説明力の検証	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	６．最初と最後の頁 247-267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計15件（うち招待講演　0件／うち国際学会　13件）

１．発表者名 Ito, Gaku, and Masataka Harada
２．発表標題 Historical Image Analysis with Machine Learning An Evaluation of the WWII Tokyo Air Raid Damages
３．学会等名 Japan Society for Quantitative Political Science（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Ito, Gaku, and Masataka Harada
２．発表標題 Historical Image Analysis with Machine Learning An Evaluation of the WWII Tokyo Air Raid Damages
３．学会等名 American Political Science Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤岳
２．発表標題 Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Deep Historical Roots of Civil Conflicts
３．学会等名 日本国際政治学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Harada, Masataka, and Gaku Ito
２．発表標題 On the Community-Level Legacies of Indiscriminate Violence: Evidence from the Bombing of Tokyo in 1945
３．学会等名 Pacific International Politics Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ito, Gaku, and Jun Koga Sudduth
２．発表標題 How Peacekeeping Spreads Peace: Spatial Effects of Peacekeeping on Violence
３．学会等名 Peace Science Society Pre-Conference Workshop（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Aid and Battle Intensity in Civil Conflicts: Escalation and Relocation
３．学会等名 International Studies Association（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Exploring the Drivers of the Colonial Expansion: A Historical GIS Approach
３．学会等名 Pacific International Political Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 When Do Colonial Legacies Matter? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts
３．学会等名 European Consortium for Political Research（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 When Do Colonial Legacies Matter? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts
３．学会等名 日本政治学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Long-Term Determinants of Civil Conflicts
３．学会等名 International Studies Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Are helping hands helpful? Explaining the impacts of humanitarian aid provision on violence in civil conflicts
３．学会等名 Midwest Political Science Association（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Are Helping Hands Helpful? Explaining the impacts of aid provision on rebel violence during civil conflicts
３．学会等名 International Studies Association, Asia-Pacific（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Disaggregating the impacts of foreign aid on rebel violence during civil conflicts
３．学会等名 Pacific International Politics Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Detecting Masses and Frictions: A Semi-Automated, Practical Guide to Estimate the Gravity Model Using R and UN Comtrade Database
３．学会等名 Annual Meeting of the Northeast Asian Academic Network（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ito, Gaku
２．発表標題 Disaggregating the impacts of foreign aid on rebel violence during civil conflicts
３．学会等名 American Political Science Association（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考